



# 富岡製糸場総合研究センターだより

No. 17

(2022年7月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！



## まゆ繭を運ぶ働き者

繰糸所そうしじょに入り上を見上げると、繰糸機に沿うようにレールが架けられ、そこにショベルカーの土を掘る部分に似たような入れ物が連なりぶら下がっています。これはバケットといい、繭を繰糸機に運ぶ装置です。

では、バケットは繭をどこから運んでくるのでしょうか。繰糸所に隣接する煮繭場しゃけんじょうという施設から、煮た繭をお湯ごと入れて繰糸所にやってきます。バケットがどの繰糸機に行くかは、バケットハンガーについている指令カムしんれいかむの取付位置によって指定されます。繭の供給は、繰糸機の繭の残量を自動で感知して供給する自動方式と、バケットがそれぞれ指定された繰糸機で全て転倒する台別方式があり、切り替えスイッチで変更できます。バケットは各繰糸機の両端にある繭投入部上で転倒することで繭を落とします。繭はパイプを通り、索緒部さくぢよぶ(糸口を探す部分)へ送られます。



創業時に使われていたフランス式繰糸器は繰糸器自体に繭を煮る釜が付属しており、工女は繭を手元で煮てから繰糸釜に移しました。その後、1918(大正7)年に煮繭場ができ分業化され、現存の煮繭場がつくられたのは1938(昭和13)年以降です。バケットは1970(昭和45)年に設置されたため、それ以前は繭を桶に入れ、カートで運んでいました。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

